

改正後（案）	現行																																				
<p>（退職料、遺族扶助料の年額の改定）</p> <p>第1条 職員又はこの者の遺族に給する熊本市退職料退職給与金死亡給与金遺族扶助料条例（大正14年告示第25号。以下「退職料条例」という。）の規定による退職料又は遺族扶助料については、令和7年4月分以降、その年額を、その年額の計算の基礎となっている給料年額（以下「給料年額」という。）にそれぞれ対応する別表の仮定給料年額を退職又は死亡当時の給料年額とみなし、退職料条例の規定により算出して得た年額（その年額に、50円未満の端数があるときはこれを切り捨て、50円以上100円未満の端数があるときはこれを100円に切り上げる。）に改定する。</p> <p>2 退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額が別表に記載された額に合致しないものについては、その給料年額に、1.047を乗じて得た額を仮定給料年額（その年額に、50円未満の端数があるときはこれを切り捨て、50円以上100円未満の端数があるときはこれを100円に切り上げる。）とみなし、前項の規定に準じて改定する。ただし、退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額が5,904,900円を超える場合においては、当該給料年額を、仮定給料年額とする。</p> <p>（長期在職者についての特例）</p> <p>第2条 前条の規定により改定された退職料又は遺族扶助料で、その在職年の年数が退職料についての最短年限以上であるものの年額が、次の各号に掲げる額に満たないときは、当該額をもってその年額とする。</p> <p>(1) 65歳以上の者に給する退職料 1,185,900円</p> <p>(2) 65歳未満の者に給する退職料 889,400円</p> <p>(3) 遺族扶助料 829,200円</p> <p>第3条 遺族扶助料を受けるものが妻であって、その妻が次の各号のいずれかに該当する場合には、令和7年4月分以降、前2条の規定により算定した年額に、当該各号に掲げる額を加えるものとする。ただし、その妻が職員又は職員であった者の死亡に係る恩給法(大正12年法律第48号)の規定による扶助料又は都道府県の退職年金条例の規定による遺族年金の支給を受けている場合は、この限りでない。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>第4条～第5条 (略)</p> <p>附則 (略)</p> <p>別表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額</th> <th style="text-align: center;">仮定給料年額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">円</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,147,000</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,200,900</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,197,800</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,254,100</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,250,000</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,308,800</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,301,700</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,362,900</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,354,600</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,418,300</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,387,400</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,452,600</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,420,300</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,487,100</u></td> </tr> </tbody> </table>	退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額	仮定給料年額	円	円	<u>1,147,000</u>	<u>1,200,900</u>	<u>1,197,800</u>	<u>1,254,100</u>	<u>1,250,000</u>	<u>1,308,800</u>	<u>1,301,700</u>	<u>1,362,900</u>	<u>1,354,600</u>	<u>1,418,300</u>	<u>1,387,400</u>	<u>1,452,600</u>	<u>1,420,300</u>	<u>1,487,100</u>	<p>（退職料、遺族扶助料の年額の改定）</p> <p>第1条 職員又はこの者の遺族に給する熊本市退職料退職給与金死亡給与金遺族扶助料条例（大正14年告示第25号。以下「退職料条例」という。）の規定による退職料又は遺族扶助料については、令和6年4月分以降、その年額を、その年額の計算の基礎となっている給料年額（以下「給料年額」という。）にそれぞれ対応する別表の仮定給料年額を退職又は死亡当時の給料年額とみなし、退職料条例の規定により算出して得た年額（その年額に、50円未満の端数があるときはこれを切り捨て、50円以上100円未満の端数があるときはこれを100円に切り上げる。）に改定する。</p> <p>2 退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額が別表に記載された額に合致しないものについては、その給料年額に、1.027を乗じて得た額を仮定給料年額（その年額に、50円未満の端数があるときはこれを切り捨て、50円以上100円未満の端数があるときはこれを100円に切り上げる。）とみなし、前項の規定に準じて改定する。ただし、退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額が5,904,900円を超える場合においては、当該給料年額を、仮定給料年額とする。</p> <p>（長期在職者についての特例）</p> <p>第2条 前条の規定により改定された退職料又は遺族扶助料で、その在職年の年数が退職料についての最短年限以上であるものの年額が、次の各号に掲げる額に満たないときは、当該額をもってその年額とする。</p> <p>(1) 65歳以上の者に給する退職料 1,163,300円</p> <p>(2) 65歳未満の者に給する退職料 872,400円</p> <p>(3) 遺族扶助料 813,400円</p> <p>第3条 遺族扶助料を受けるものが妻であって、その妻が次の各号のいずれかに該当する場合には、令和6年4月分以降、前2条の規定により算定した年額に、当該各号に掲げる額を加えるものとする。ただし、その妻が職員又は職員であった者の死亡に係る恩給法(大正12年法律第48号)の規定による扶助料又は都道府県の退職年金条例の規定による遺族年金の支給を受けている場合は、この限りでない。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>第4条～第5条 (略)</p> <p>附則 (略)</p> <p>別表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額</th> <th style="text-align: center;">仮定給料年額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">円</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,147,000</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,178,000</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,197,800</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,230,100</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,250,000</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,283,800</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,301,700</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,336,800</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,354,600</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,391,200</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,387,400</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,424,900</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><u>1,420,300</u></td> <td style="text-align: right;"><u>1,458,600</u></td> </tr> </tbody> </table>	退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額	仮定給料年額	円	円	<u>1,147,000</u>	<u>1,178,000</u>	<u>1,197,800</u>	<u>1,230,100</u>	<u>1,250,000</u>	<u>1,283,800</u>	<u>1,301,700</u>	<u>1,336,800</u>	<u>1,354,600</u>	<u>1,391,200</u>	<u>1,387,400</u>	<u>1,424,900</u>	<u>1,420,300</u>	<u>1,458,600</u>
退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額	仮定給料年額																																				
円	円																																				
<u>1,147,000</u>	<u>1,200,900</u>																																				
<u>1,197,800</u>	<u>1,254,100</u>																																				
<u>1,250,000</u>	<u>1,308,800</u>																																				
<u>1,301,700</u>	<u>1,362,900</u>																																				
<u>1,354,600</u>	<u>1,418,300</u>																																				
<u>1,387,400</u>	<u>1,452,600</u>																																				
<u>1,420,300</u>	<u>1,487,100</u>																																				
退職料、遺族扶助料の年額の計算の基礎となっている給料年額	仮定給料年額																																				
円	円																																				
<u>1,147,000</u>	<u>1,178,000</u>																																				
<u>1,197,800</u>	<u>1,230,100</u>																																				
<u>1,250,000</u>	<u>1,283,800</u>																																				
<u>1,301,700</u>	<u>1,336,800</u>																																				
<u>1,354,600</u>	<u>1,391,200</u>																																				
<u>1,387,400</u>	<u>1,424,900</u>																																				
<u>1,420,300</u>	<u>1,458,600</u>																																				

1,457,600
1,510,800
1,556,600
1,599,400
1,651,000
1,703,100
1,759,800
1,817,200
1,888,700
1,933,900
1,992,000
2,048,700
2,161,000
2,191,200
2,277,800
2,392,800
2,520,000
2,584,900
2,646,800
2,735,200
2,787,300
2,938,000
3,012,900
3,090,900
3,241,400
3,393,000
3,432,600
3,557,900
3,735,700
3,911,900
4,020,600
4,126,700
4,342,000
4,552,800
4,594,200
4,758,000
4,964,600
5,170,100
5,374,200
5,503,100
5,640,400

1,526,100
1,581,800
1,629,800
1,674,600
1,728,600
1,783,100
1,842,500
1,902,600
1,977,500
2,024,800
2,085,600
2,145,000
2,262,600
2,294,200
2,384,900
2,505,300
2,638,400
2,706,400
2,771,200
2,863,800
2,918,300
3,076,100
3,154,500
3,236,200
3,393,700
3,552,500
3,593,900
3,725,100
3,911,300
4,095,800
4,209,600
4,320,700
4,546,100
4,766,800
4,810,100
4,981,600
5,197,900
5,413,100
5,626,800
5,761,700
5,905,500

1,457,600
1,510,800
1,556,600
1,599,400
1,651,000
1,703,100
1,759,800
1,817,200
1,888,700
1,933,900
1,992,000
2,048,700
2,161,000
2,191,200
2,277,800
2,392,800
2,520,000
2,584,900
2,646,800
2,735,200
2,787,300
2,938,000
3,012,900
3,090,900
3,241,400
3,393,000
3,432,600
3,557,900
3,735,700
3,911,900
4,020,600
4,126,700
4,342,000
4,552,800
4,594,200
4,758,000
4,964,600
5,170,100
5,374,200
5,503,100
5,640,400

1,497,000
1,551,600
1,598,600
1,642,600
1,695,600
1,749,100
1,807,300
1,866,300
1,939,700
1,986,100
2,045,800
2,104,000
2,219,300
2,250,400
2,339,300
2,457,400
2,588,000
2,654,700
2,718,300
2,809,100
2,862,600
3,017,300
3,094,200
3,174,400
3,328,900
3,484,600
3,525,300
3,654,000
3,836,600
4,017,500
4,129,200
4,238,100
4,459,200
4,675,700
4,718,200
4,886,500
5,098,600
5,309,700
5,519,300
5,651,700
5,792,700

5,904,900

6,182,400

5,904,900

6,064,300

附 則

- 1 この条例は、公布の日から施行し、この条例による改正後の熊本市退職料、遺族扶助料の年額の改定に関する条例(次項において「改正後の条例」という。)の規定は、令和7年4月1日(同項において「適用日」という。)から適用する。
- 2 適用日からこの条例の施行の日の前日までの間において、熊本市退職料退職給与金死亡給与金遺族扶助料条例(大正14年告示第25号)及びこの条例による改正前の熊本市退職料、遺族扶助料の年額の改定に関する条例の規定に基づいて支給された退職料又は遺族扶助料は、改正後の条例の規定による退職料又は遺族扶助料の内払とみなす。